



栗駒山(宮城県)の紅葉 2003.10.11

第47回神奈川県溶接技術コンクール開催される

神奈川県及び(社)日本溶接協会神奈川県支部共催による、第47回(平成16年度)神奈川県溶接技術コンクールは、平成16年6月11日(金)(財)日本溶接技術センターにおいて開催されました。

参加者は47名(被覆アーク溶接第1部19名・同第2部2名、炭酸ガス半自動溶接第1部23名・同第2部3名の各会社から選び抜かれた精鋭選手は神奈川県一番を目指して熱い戦いを展開した。

今年は、競技課題が大幅に変わりました。従来は薄板はI形開先の立て向き溶接、中板はV形開先の横向き溶接でしたが、平成16年度から全国溶接技術競技会の課題が変わることにより、それに合わせて神奈川県溶接コンクールも変更されました。薄板はI形開先の立て向き溶接そのままですが、中板はレ形開先の横向き溶接(裏当て金なし)、そのうえ1部・2部共通課題になりました。

初めての競技課題ということもあり全体的に得点が低下して平均点も大きく低下したコンクールでした。

尚 今年の全国溶接技術競技会は静岡県浜松市で開催されます。この代表選手に選ばれるには被覆アーク溶接と炭酸ガス半自動溶接(1部・2部共通)でそれぞれ1位・2位に入賞しなければ代表に選ばれません。是非とも神奈川県代表となり、全国競技会で優勝または好成績を目指して、代表権獲得に燃える熱気が伝わって来る大会でした。

表彰式は9月8日(水)(財)日本溶接技術センターに於いて開催されました。主催者を代表して神奈川県商工労働部大塚景久工業振興課長、(社)日本溶接協会神奈川県支部相原正公支部長、神奈川県産業技術総合研究所所長馬来義弘審査委員長初め、入賞選手・会社代表・来賓・協会役員付き添いなど約60名の出席者をえて賑やかに行われました。

昨年、長崎県で開催された平成15年度(第49回)全国溶接技術競技会において、神奈川県が半自動溶接の部で見事に優勝しました。

今年は是非両部門で優勝を果たし、優勝旗を2本神奈川県に持ってきて頂きたいと期待を込めて激励の声があふれていました。また、代表になった4選手から優勝を目指しての決意表明もありおおいに盛り上がった表彰式でした。

各部の優勝者

神奈川県知事賞 団体賞・個人賞

被覆アーク溶接第一部第1位

(株)東芝 京浜事業所 川口広

炭酸ガス半自動溶接第一部第1位

東急車輛製造(株) 末木良一

被覆アーク溶接第二部

該当なし

炭酸ガス半自動溶接第二部

該当なし

尚 入賞者に神奈川県知事賞(個人賞)のほかに下記の賞が贈られました。
 (社)日本溶接協会神奈川県支部長賞(優秀賞・優良賞)、(入賞者全員)
 (社)日本溶接協会東部地区溶接技術検定委員長賞、(各部1位)
 (株)産報賞(各部1位)

入賞者 (成績順)

アーク溶接第1部		アーク溶接第2部	
川口 広	(株)東芝京浜事業所	岡谷 義幸	(有)プラント溶接
新井 茂章	三菱重工業(株)横浜製作所金沢工場	半自動溶接第1部	
森下 大士	(株)東芝京浜事業所	末木 良一	東急車輛製造(株)
佐藤 直樹	三菱重工業(株)横浜製作所金沢工場	福田 芳昭	(株)東芝京浜事業所
山上 浩司	三菱電機(株)鎌倉製作所	佐藤 和夫	住友重機械マリンエンジニアリング(株)
吉田 悟	JFE工建(株)	宮崎 渉	JFE工建(株)
久富 亮輔	三菱重工業(株)横浜製作所本牧工場	砂川 純二	JFEエンジニアリング(株)
古川 忍	新興プランテック(株)	浅海 雄一	神鋼溶接サービス(株)
杉山 大地	神鋼溶接サービス(株)	平林 勝徳	(株)東芝京浜事業所
板橋 貴幸	富士電機システムズ(株)川崎工場	半自動溶接第2部	
小山内康明	三菱重工業(株)横浜製作所本牧工場	該当なし	
榎野 義則	神鋼溶接サービス(株)		
三島 義徳	富士電機システムズ(株)川崎工場		

(敬称略)



入賞者全員集合です

平成16年度(第50回)全国溶接技術競技会

静岡県で開催

平成16年度(第50回)全国溶接技術競技会は(社)日本溶接協会・(社)日本溶接協会中部地区支部・(社)日本溶接協会静岡県支部主催で下記の日程と会場で開催されます。

神奈川県からは今年度の神奈川県溶接技術コンクールで手溶接第1部及び半自動溶接第1部で1位2位になられた下記4名の方が代表として参加します。

開会式・選手懇親会

平成16年10月23日(土)
会場 グランドホテル 浜松

競技会

平成16年10月24日(日)
会場 静岡県立 浜松技術専門学校

神奈川県代表選手

被覆アーク溶接の部

川口広／(株)東芝京浜事業所
新井茂章／三菱重工業(株)横浜製作所

半自動溶接の部

末木良一／東急車輛製造(株)
福田芳昭／(株)東芝京浜事業所



福田さん、末木さん、川口さん、新井さん

神奈川からアジアへそして世界へ

(財)日本溶接技術センター 会長
工学博士・技術士 稲垣 道夫

今年、国際溶接学会 (IIW) 年次大会が7月中旬の6日間、大阪中之島の国際会議場で開催され、また国際ウエルディングショーが同時期の4日間、インテックス大阪で開催され、最新の溶接技術が世界へ同時情報発信されたことで相乗効果をもたらし、かつてない盛大な活気に満ちた会議と展示会になりました。国際ウエルディングショーは、日本溶接協会と産報出版(株)との共催で、今回のショーのテーマは「世界をつなぐ溶接・接合技術－日本からアジアへそして世界へ」であって、このショーがIIW年次大会とともにグローバル時代における溶接の未来を展望する道しるべとなりました。そこでこれにならって、私のこの小論の題目を我が国の経済・産業が「神奈川からアジアへそして世界へ」と飛躍することを念願して命名することにしました。

我が国の経済・産業は約10年前のバブルの崩壊からいま、ようやく脱却して景気回復基調にありますが、このいわゆる失われた10年間には、多くの企業の倒産や業務の撤退があり、各産業界の生産量の減少とリストラが行われ、失業率も上昇しました。ここ神奈川県は、我が国トップクラスの産業集積地域ですが、この時期工場の国内外への移転流出とデフレ不況で生産が大きく落ち込み、産業の地盤沈下が懸念されています。

隣国の中国は、人口が現在13億で日本の10倍以上、面積は日本の26倍の広大な国であり、いま中国の産業と経済は多くの矛盾をかかえながら、猛烈な勢いで発展しており、我が国としてはいやおうなしに中国とよりよくなり合っていく行かなければなりません。そこで、(社)日本溶接協会神奈川県支部の本年度第一回理事・監事会において提

案があり、アジア特に隣国中国の経済発展の動向に注目する必要があるとあり、当理事・監事会においても中国事情の調査を行うことになりました。

中国は古い歴史と伝統から、対外的には常に中国が世界の中心にあるという中華思想を持ち、時に問題になる中国の抗日感情は、中国共産党の一方独裁政治の対外敵視政策によるとともに、ここに土壌があると思われます。中国は過去の文化大革命に見るような貧困の時代の毛沢東思想をくつがえして、鄧小平提唱による市場経済を採用し、外資導入などで一瀉千里の勢いで経済発展を進めております。しかし、中国はいま建設、開発が進む中で、環境破壊、国土の荒廃、水不足、エネルギー消費と停電、人権・民主化問題、公務員の汚職、沿岸部と内陸部の経済格差の問題、軍事力の増強と海洋・宇宙覇権など様々な矛盾や課題を抱えています。慶應義塾大学は中国を代表する有名な精華大学と共同で、1999年から2003年までの5年間にわたって、エネルギー、環境、経済の3E研究を行い、その成果を報告しております。この中で、中国のエネルギー・環境分野と経済分野について、厳しい提言をまとめており、石炭のクリーン利用、エネルギー効率の向上、環境規制と経済のグローバル化のための市場経済秩序の形成、知的財産制度の確立と運用、中小企業発展対策などを挙げています。中国の社会・経済の現状はいま大きく揺れており、日本の100年間が同居しているのが中国の現実と考えられます。なお、精華大学は北京市北西に位置し北京大学と隣接して建てられており、1911年米国が中国近代化に資するため、米国のMITを手本に建てられた工科大学で、胡錦濤現主席や朱鎔基前

首相をはじめ中国の各界要人を輩出しております。私が20年ほど前に精華大学を訪れた際に、MITのドーム型屋根を真似た図書館に案内されたときは、私どもの執筆した多数の溶接図書の中国語に翻訳された海賊版がその本棚に並んでおり、案内の教師が自慢げに説明してくれたことを思い出します。

我が国は近年、対中貿易などによって中国への生産移転が行われ、この中で日本企業の勝ち組と負け組が二分されてきております。勝ち組はビジネスモデルを変えたインテグラル型産業の自動車や高品質製品などであり、ここでは日中分業を考え、日本の産業集積統合の得意技と製品特性の相性を見極めた上での生産を進めることが必要であります。今後の中国は、日本、台湾、韓国、北朝鮮、東南アジアなどの周辺諸国との関係で、多元的な国家に変革して行くものと思われます。隣国の日本としては、現代の時空近接時代にあって、中国との間のコミュニケーションはより広範で密接なものになって行くので、日本のアイデンティティーすなわち強固な独自性を持って、いわば「和魂洋才」型で中国と緊密に接し、共存共栄の関係を構築して交流して行くことが大切であると考えます。

いま世界を見回すと、地球の縦割りの姿が見えてきて、欧州の社会・経済連合を目指す欧州連合 (EU) や南北アメリカの経済統合を目指す米州自由貿易地域 (E T A A) 構想、中国やロシアの地政学的戦略による存在感、そして南北問題などがあり、日本としては、東アジア諸国を中軸に据えた自由貿易協定 (F T A) ・経済連携協定 (E P A) 戦略による経済統合構想を展開して行く必要があり、そして世界全域との社会的・経済的連携を模索して行かなければならないと思います。

催し事のお知らせ（予告）

1 講演会

＝ガスシールドアーク溶接の基礎と新展開＝

日 時 平成16年12月3日（金）10：15～16：20

場 所 かながわ労働プラザ 横浜市中区寿町 JR根岸線・石川町駅北口徒歩3分

主な演題と講師

“マグ溶接ワイヤの種類と特性”

(株)神戸製鋼所溶接カンパニー 技術部 主任研究員 鈴木励一様

“溶接品質・作業性に及ぼすシールドガスの影響と最近の動向”

日本酸素(株)溶接技術センター 所長 佐藤豊幸様

“ガスシールドアーク溶接機器の進歩と最近の動向”

日立ビアメカニクス(株)溶接機本部 副技師長 三田常夫様

2 見学会

日 時 平成17年1月21日（金）

見学先 日本ウエルディングロッド(株)浜松製造所

＝工場見学と最近のステンレス溶接等について講演していただく予定です

上記催しについてはたまたま詳しい案内書作成中につき、会員の皆様には出来あがり次第お送りします。

評価試験情報

- ①更新試験の受験期間が次のようになっています。
更新試験の受験期間は技術資格の有効期限が切れる8か月前から2か月前までに試験を受けなければなりません。
- ②更新試験に合格した場合は資格の登録日が現在資格の有効期限に合わせて登録されるようになっています。
- ③上記期間外に受験する場合は有効期限内であっても、新規試験（学科試験免除）で基本級も受験しなければなりませんのでご注意ください。
- ④更新試験と同時に新規種目も受験出来ますが、この場合は新規試験（学科試験免除）扱いとなり左記②の扱いは受けられません。
- ⑤試験結果の発表は、毎月の15日以前の試験は翌月末の発表です。16日以降の試験は翌々月末の発表です。

サーベイランス（継続試験）と更新試験（再評価試験）

溶接適格性証明書には登録年月日（発行年月日）と有効期限が記載されています。サーベイランスとは書類のみの手続で試験はありません。有効期限の3ヶ月前から期限の日までに手続をして下さい。必ず有効期限の3ヶ月前に通知を出しています。最初の（1回目）のサーベイランスをしないと2回目のサーベイランスの通知は行きません。サーベイランスは2回です。サーベイランスを2回されると次ぎは更新試験（再評価試験）になります。実技試験を受けなおして合格されますと新しく証明書が発行されます。但し1回目のサーベイランス又は2回目のサーベイランスをされませんと更新試験の案内も行きませんのでご注意ください。

お車利用者へお願い

神奈川県支部は下記の3会場で試験を実施していますが車で来場する方が多く対応に困っています。

- | | | |
|----------------|-----------|-------|
| ①溶接技術中央検定場 | 川崎市川崎区池上町 | 駐車場あり |
| ②(財)日本溶接技術センター | 川崎市川崎区本町 | 駐車場なし |
| ③日立ビアメカニクス(株) | 海老名市上今泉 | 駐車場あり |

その為①と③の会場では駐車場はありますが車利用者が多いので受験者を制限しています。

受験される方は出来るだけ電車・バスなどを利用してこられますようお願いいたします。

また、車で来られる場合は出来るだけ受験者同士の相乗りやまた会社の送迎などで来られますようお願いいたします。あまり車で来所者が多くなると、ますます受験者数を制限しなければいけなくなりますのでそのような事にならないよう是非ご協力をお願いいたします。

尚 ②(財)日本溶接技術センターは無料駐車場がありません。

車で来場の場合は近辺の有料駐車場をご利用してください。

(社)日本溶接協会神奈川県支部

TEL 044-233-8367

FAX 044-246-5265